

ボランティア活動保険等の補償制度は、社会福祉協議会およびその構成員・会員ならびに社会福祉協議会が運営するボランティア・市民活動センターなどに登録されているボランティア・ボランティアグループ・団体が加入対象です。

安全第一

「ボランティア活動保険」の事故事例から学ぶこと！

現在、全国の社会福祉協議会に登録されているボランティアの方々は約868万人です。その活動内容は多岐にわたり、高齢者や障害者の交流活動や生活支援、子どもの健全な育成を支える活動、災害で被災した地域の復興に関わる活動等々、さまざまです。

一方、ボランティア活動にともなう事故も、全国では毎年約2,400件前後発生しています。これは一日あたりにすると、約6.5件のボランティア活動にともなう事故が発生していることになります。

これからも充実したボランティア活動を継続するためには、何よりも安全第一・事故防止の取り組みが欠かせません。そこで今回は、ボランティア活動保険の事故事例から、安全な活動にお役立ていただけるヒントをご紹介します。

転倒事故の事例

■事故の概要

ボランティア活動で福祉まつりの会場準備中、一人で脚立に上って会場壁面に横断幕を吊り下げようとしたところ、脚立のバランスが崩れて約1mの高さから床に転落し、左足大腿骨を骨折、脊柱変形の後遺障害も残る大ケガを負ったもの。



■傷害の程度

・入院72日、通院35日、後遺障害11級(63歳・男性)

■事故の原因

脚立を使う作業の場合は、補助者が脚立を支えて安全を確保するように努めていたが、当日はボランティアの人数が少なかったため、一人で作業を開始し、バランスを崩して転倒事故に至ったもの。

■事例から学ぶこと

脚立に乗るなどの足元が不安定な場合は必ず、補助者に支えてもらい安全を確保しましょう。また、重いものは複数人数で運ぶなど、ムリをせずに作業の危険度に応じて周囲の方々と協力が大切です。なお、安全が確保できない場合は、活動を中断することも必要です。

熱中症の事例

■事故の概要

当日は午前10時頃より災害支援・瓦礫を撤去するボランティア活動を開始。昼食後、活動を再開したが、午後3時頃に気分が悪くなり、その後意識障害も起こり、熱中症で救急搬送される。

■傷害の程度

・入院2日、通院3日(29歳・女性)

■事故の原因

季節は10月上旬ではあったものの、当日は高温多湿の天候で、適宜水分も補給していたが、屋外での長時間の活動により熱中症を発症。なお、前日の睡眠不足により体調が不十分であったことも一因かと推測される。

■事例から学ぶこと

季節や天候にもよりますが、直射日光の下や閉め切った室内など、高温多湿の環境に長くいると、多量の発汗によって脱水症状が起こることがあります。また、体調管理も大切です。体調が優れない時はムリをせず、活動を見合わせることも重要です。暑い季節の屋外での活動の場合、帽子やタオルは必需品です。そして、こまめな水分補給と休憩も忘れずに励行しましょう。

